

# 青森県生協連「2010年度理事研修会」開催報告

- ・8月18日(水)、青森市男女共同参画プラザ(アウガ5F)研修室において県連主催の「2010年度理事研修会」が開催され、県内の生協から56名の役職員の参加がありました。
- ・井筒会長の開会挨拶につづき、中島常務の講義に移りました。中島常務の歯切れよい軽快なテンポのよい講義に、参加者は最後まで熱心に聞き入り、メモを取っていました。昼食をはさみ、午後は、グループ討論。「自分の生協でやってみたい事」をテーマに話し合い、グループ毎にまとめを発表しました。内田副会長の研修会のまとめと閉会挨拶の後、終了となりました。

1. 日 時 2010年8月18日(水) 10:00～14:15
2. 場 所 青森市男女共同参画プラザ(アウガ5F)研修室
3. 出 席 56名  
コープあおもり(15名)青森県民生協(5名)青森県庁消費生協(8名)八戸医療生協(4名)  
津軽保健生協(12名)青森保健生協(7名)県生協連(4名)講師(1名)

4. 当日プログラム <司会:県生協連常務理事 小野寺静子>  
10:30～10:35 開会挨拶:青森県生協連 井筒智義会長  
10:35～11:45 講義「コープさっぽろの連続理事学習会の取り組み」  
講師:中島則裕氏(生活協同組合コープさっぽろ常務理事)  
11:45～12:00 質疑応答  
12:40～13:50 グループ討論「自分の生協でやってみたい事」  
13:50～14:10 グループ報告  
14:10～14:15 まとめと閉会:青森県生協連 内田弘志副会長



## ■ 講義 テーマ「コープさっぽろの連続理事学習会の取り組み」

講師:中島則裕氏(生活協同組合コープさっぽろ常務理事)

<講義要旨>

中島氏は、1)2002年からスタートした組合員理事学習会の推移、2)2010年度の組合員学習会、3)「非営利組織のマネジメント手法(by ドラッカー)のそれぞれを解説しながら、「コープさっぽろにおける組合員活動」を進める上での考え方や今後の進め方について話されました。

(※文中の→は、中島さんが補足されたこと、強調されたこと)

### 1)コープさっぽろの組合員理事学習会の推移(2002年から2009年にかけて)

#### ①2002年より事業再建とともに組合員活動の再構築。

→組合員理事の有りよう(活動における自主・自立性の確保、活動はボランティア精神に基づいていなければ真の組合員活動とは言えない)。

#### ②2007年度:外部講師を中心に学習会を再スタート

#### ③2008年度:社会貢献を本気で取り組む決意 →「地域(北海道)への恩返し」

#### ④2009年度:ドラッカーの学習

→「何のために生協をやっているか」の考え方のベクトル合わせ。非営利組織における理事・理事・リーダーの役割(機能)を学ぶ

### 2)2010年度のコープさっぽろの理事学習会の考え方(2010年3月1日発信)

#### ①学習会の目的は何か

→理事は、「よりよい暮らしの実現」「地域への貢献」をめざす組合員活動リーダーとして、

- 暮らし・地域の実態と要望を把握する力、
- 暮らし・地域の問題を解決する力、
- 活動参加を広げるための組織化する力、
- 他団体との繋がりを広げるネットワーク力を培う。



中島則裕常務

これらを通して目的を推進するための組織(NPOを含む)を立上げ、運営する力を身に付ける。

## ②何を学ぶのか

→基本学習として…協同組合論、コープさっぽろの活動の歴史、経営の見方食品の安全・安心、環境問題について

- ・学習の目的から…非営利組織の活動やソーシャルビジネスを通じて非営利組織の役割と運営について
- ・スキル養成として…ファシリテーター、ワークショップの実践訓練

## 3)「非営利組織のマネジメント手法(byドラッカー)」

(1)非営利組織について(ドラッカーの非営利組織に対する示唆)

○非営利機関は、内向きになりがちである。自分達は正しいことをしているという自負をもち、その奉ずる大義に全身を捧げているために、組織自体を目的と見てしまう。しかし、それは官僚主義にほかならない。そのうち、組織内の誰も、「それは自分達の使命に合っているか」とは問わなくなる。代わって、「自分達の内規に合っているか」と問うようになる。これでは、成果を生まないばかりか、ビジョンも献身も破壊されてしまう。○非営利機関として、どのような成果を求められているかを考える規律さえ身につけていれば、倫理運動か経済活動かという混乱から生ずる資源の浪費を防ぐことができる。自分達のやっていることはすべて倫理的な運動であり、成果が出ようが出まいが追求すべきであるという考え方は、非営利機関の役員にとって、またとなく非営利機関の理事会にとって、つねにつきまとう誘惑である。

(2)マネジメントとは(ドラッカーによるマネジメントの定義)

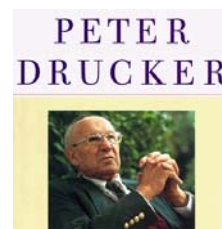
- ①組織に成果を上げさせるための道具、機能、機関
- ②組織を目的に向かって動かす力

(3)マネジメントの3つの重要なこと

- ①組織の目的と使命を明確にする  
→我が組織は、何のためにどこに向かって何を行っているのか、役に立っているのか
- ②活動の生産性を上げて働く人を活かす  
→人が生き生きしているためのリーダーの役割は、人の話を聞くこと(80%)。聴く力を身につけること。話をさえぎるな、自分の話す事しか考えないのは止めよう。
- ③社会的責任を全うする。  
→掲げたことはきちんとやる。

(4)非営利組織のマネジメントの自己評価(5つの重要な質問)

- ①われわれの使命は何か  
→掲げている方針にあいまいな点が多い。何のために、どこに向けてを明確にする。  
リーダーは、一歩先に行く、ただ、環境や食の安全をやっていけばいいのではない。
- ②われわれの顧客は誰か
- ③顧客は何を価値あるものとするか  
→自分の関心で動くリーダーは危険。非営利組織の役割は、社会的問題の解決であり、個人の問題解決ではない
- ④われわれの成果は何か  
→組合員の満足や意識を定性的、定量的にとらえる。
- ⑤われわれの活動は正しいか？  
→何で成果を図るかが大事。  
「昨年やったから、今年もやる」とは考えない。「止めることの大切さ」(役割が終わったものが結構ある)。一人でもいいと言えやうり続け…なかなか止めないのが現実。  
★コープさっぽろでは、(5つの重要な質問)のフィルターで、既存の活動の見直しを行っている。



## 4) お話の中にでてきたフレーズのいくつか(参加者の感想文に多かった言葉など)

- ・同じ目標に向かって進むことが大切。「止める勇気」。
- ・社会(地域)貢献、北海道への恩返し、コミュニケーションの大切さ。
- ・組合員にとっては学習が目的となるが、組合員リーダーにとっての学習は手段である。
- ・生協は社会の問題を解決する組織。
- ・組合員が何を望んで、何を期待しているのかを今一度考えなおしてみる。

## 5)グループ発表の概要

「今後、自分たちの生協でやってみたい事、グループで話し合ったこと。心に残った言葉」

### 【Aグループ】

- ① 目的意識を持って学習会を定期的を開催したい。
- ② 内向きになりがちなので外からの意見を聞く力をつける。
- ③ 地域住民を良く知り(独り暮らし、家族構成等)社会的使命の追求につなげる。



### 【Bグループ】…雑談?よもやま、近況交流

- ① 県内各生協の交流を更に深める。
- ② 各生協のいろいろな業態をいかして、斡旋の方法を多角的に考えて進めていく。
- ③ 以上の交流や協力を積み重ね、組合員の役に立つ政策をもっとアピールしていく。

### 【Cグループ】

- ① 非営利組織の経営という本を読みたい
- ② 理事はきちんと学習していくという意識をもつ。
- ③ 理事は、地域に目を向け、地域の意見をよく聞くこと、人の話をさえぎらないで最後までよく聞くという姿勢を大事にしたい。



### 【Dグループ】

- ① 自己評価(五つの重要な質問)はやりきれていない、使命を感じる目標を持つ。
- ② 高齢者(独り暮らし、認知症)をサポートする事が大切。学習会をやりた
- ③ 人は財産。社会のために役立っていると心から思えるか
- ④ コミュニケーションで人の話を80%聞く。
- ⑤ 商品のコマーシャルを充実させる。
- ⑥ 独り暮らしの人を元気にするためには、購買生協と医療生協の協力が



### 【Eグループ】

- ① 学習が目的になっている。学んだことをどのように活かすのかが大事
- ② 自己評価(五つの質問)を今後の日々の活動に活かすことが大事。
- ③ 生協の場をコミュニケーション(絆)を深める場としていく
- ④ 青森に生きる我々が、青森県に生きる人を財産に、青森に存在し学び成長する場としての生協にしていくことで、使命を成し遂げることができる。

### 【Fグループ】

- ① 自己評価(五つの質問)を取り入れていく
- ② 生協の使命を明確にし、働く人が生き生きとして社会的責任を全うすることが重要。
- ③ 人の話を最後まで聞くことが大事